

Raymond Academy

レイモンド学園だより No.37

2016年11月

良い地

「良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」マタイ 13 : 23

多くの実を实らせる良い地になるには、いくつかのことが必要です。よく根が伸びていけるように土壌が適度な深さやある程度の硬さに耕されていることが必要ですし、微生物や酸素の存在も不可欠です。

レイモンド学園の生徒たちの心はよく耕された良い地だと思います。なぜならよく手入れをされているからです。彼らは毎日みことばを聞き、覚え、そして PACE を学ぶ中で聖霊様から語られる環境にいます。また、チャペルタイム、ディボーションでメッセージを聞き、日々の生活への適応を学びます。土の中の微生物や酸素のように、神様の愛とケアがしみ込んで、通気性ある土壌のように聖霊の風が入り、常に御霊の感化を受けています。それだけでなく、明確な規律の中で正しいことを教えられ、聖書の裏付けを教えられ、価値観を植え付けられながら日々を過ごしています。デメリット（罰則）を受け取ることで矯正され、様々な奉仕や活動の中で訓練を受けています。教師の指導も、神様の導きによって心の中の不必要な雑草や石ころを取り除くかのような霊的取り組みです。生徒はプライド、自己中心の雑草を抜かれ、不敬虔、不従順の硬い土の塊は鍬や鋤で碎かれます。その際、教師は鍬となって痛みを覚えながらも全身を使ってその塊を柔らかくするために働いています。そして土にはある程度の硬さが必要ですから、教師たちは土を踏むように生徒の心に訓戒を与えることも多々あります。そのような日常生活を送ることで、農夫である神様の手で耕された土壌が作られていると思います。その結果、生徒たちの心は、敏感に、神様が植え付けられたことを聞いて悟り、神様の望まれる実を結んでいってくれると思っています。

現在1年生から12年生（高校3年生）まで23人の児童生徒が学んでいます。3月には2名の生徒が卒業し、進学していきます。生徒たちがどのような実を結んでいくのか思い描くと、とても楽しみです。

どうぞこれからも生徒たちが神様に整えられ、豊かに成長していきますようにお祈りをもってお支えください。

学園長 伊東 美穂

【生徒のレポートより】

「信仰深い」高校生

信仰深いと言うことは、自分の人生において、イエス・キリストのご性質のすべてをあらわすことを求めていくと言うことです。

今月のチャペルで献仁先生は、イエスの母マリアを通して、信仰深いと言うことについて教えてくださいました。マリアは神の御使いにイエス様をみごもることについて伝えられた時、受け入れることが出来ました。普通ならば、処女である自分がみごもった事が周りの人々に知られた時、石打ちにされてしまうことを恐れて、直ぐに受け入れることが出来無いと思います。

なぜマリアは受け入れることが出来たのかと言うと、マリアは全てを主にゆだねていたからです。自らを主のはしためとし、みことばを信じ、それに服従していました。また石打ちの可能性や、周りからの目、そのようなことから心配や不安があったとしても、全てを神の御心だと信じ、それに従ったこと、そしてそれを知って主に感謝したところ、マリアの信仰深さだと思いました。

イエス様を信じる私達がイエス様に似たものとなることを神様は望んでおられます。エペソ5章1節「ですから、愛されている子どもらしく、神にならうものとなりなさい。」

どんなに自分にとって不都合なことがあったとしても、また自分が面倒だと思うことがあったとしても、それをすべて神様が自分の前に置かれているのだと信じ、受け入れ、そのことに感謝することが信仰深いと言うことであると学びました。

私は自分の抱えている問題や不安、それらをマイナスな事、としかとらえることが出来ていませんでした。これからはそのような問題、不安、不都合、面倒だと思えることすべて神様の目的のためのものであると信じ、感謝し、ゆだねて、それを乗り越える力を日々祈り求めていきたいと思いました。

「信仰深い」高校生

信仰深いという言葉について教えてくれる聖書の箇所は、「しかし、神の人よ。あなたは、これらのことを避け、正しさ、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい。」第1テモ6章11節です。

この箇所に書いてある避けなければいけない「これらのこと」とは、同じ第1テモテ6章4節、5節に書いてある、「ねたみ、争い、そしり、悪意の疑り」などといった事でしょう。僕達が、信仰深い人になるためには、これらの事を避けて行かなければいけません。

信仰深いという事について教えてくれる聖書の人物は、カレブとヨセフです。カレブは、何十年もの間、忍耐強く信仰を持ち続けました。自分以外の十人と民の決断により、荒野での生活を四十年強いられた中で、カレブは神様に従い続けました。また、ヨセフは、エジプトで王宮に仕えていた頃、王の妻に「一緒に寝ておくれ」と言われ、それとことわりました。それでも王の妻はヨセフの服を強引につかみ、自分の部屋につれこもうとすると、ヨセフはきていた服を脱ぎ、走って逃げました。この二人から僕は二つの事を学びました。一つは、カレブのように強い信頼と、神様への服従心を持ち続ける事、もう一つは、ヨセフのように罪から真っ先に逃げる事です。

僕は、今回学んだ事を日々の生活で行うために、もっと聖書を知り、神様に祈る事が必要だと思いました。ですから、これからはもっと聖書を読み、毎日ディボーションをして整えられていきたいです。

【報告】

9月2日(金) 特別講義「Enjoy English」 講師：ジョセフ・ポーシャック師
(東京基督教大学教授)

日頃大学で教鞭をとっておられる教授が、出張模擬授業をしてくださるということになり、「英語を楽しく学ぶ」というテーマのもと、英語で講義をしていただきました。6年生以上の生徒が参加しました。とても刺激になりました。



10月7日(金) オーナーロール・トリップ としまえん

2学期の勉強を予定通り終わられた生徒達と豊島園に行き、思い切り叫び遊んできました。残った生徒たちも実はとても努力をして2学期を終えました。皆あと少し!!という生徒ばかりです。次回は全員で Honor Roll Trip に行きたいです。



10月22日(土) 運動会

昨年同様、横浜市立川上小学校のグラウンドをお借りして、運動会を開催しました。天候にも恵まれ、生徒23人とそのご家族、教会の方々と共に楽しい時を過ごしました。オーシャンズ「心を一につかもう勝利」VS イーグルス「Over the Top」の2チームでの戦いとなりました。各競技はもちろんですが、応援団、ソーラン節などの団体競技は素晴らしい出来栄で、観ておられた方々も喜んでくださいました。準備を喜んで進める生徒、準備を苦手とする生徒、日増しに輝いていく運動の得意な生徒、リーダーシップを発揮している生徒、など様々な生徒達が作り上げる学校行事は大変尊いものだと、毎年神様の御名を崇めています。



10月28日(金) ACE セミナー

毎年恒例の ACE セミナーを今年も開催し、全国から沢山の方が集まりました。「Here am I」というテーマにより、参加者一人一人がもう一度召命を確認し、教育者として、またクリスチャンとして、主に向かって「主よここに私がおります。用いてください。」とお応えするときとなりました。教会のメンバー、ACE ジャパンに関わる方、そしてレイモンド学園の保護者の一人一人も、大きな恵みを受けました。



11月4日(金) 特別講義 「Enjoy English」 講師：本城亜梨架さん (2009年3月卒業生)

本学園を卒業後、大学に進学し、就職して3年目になる卒業生本城亜梨架さんが、現在英語を使って仕事をしています。卒業生ならではの話をしながら、生徒に英語で学べることの祝福と強み、そして社会に出てからみことばに支えられて生活している、という証をしてくれました。母校を愛し、大切にしてくれる卒業生を見て、大変うれしく誇りに思います。本城さん以外にも、卒業生は学園祭、運動会にと顔を出して応援してくれています。



【お祈りのリクエスト】

12月9日(金) 前田町内にある有料老人ホームを訪問し、音楽クラスで練習したコワイヤチャイムを演奏します。事前に工作クラスで作成したクリスマスカードを手渡すなどして、交流させていただく予定です。

12月13日(火) 終業式&クリスマス会を行い、これをもって冬休みに入ります。

2011, 2012年に教師として仕えてくださったマンナイ・ディム・ナイト先生に今年10月第2子(男子)が誕生されました。母子ともにお元気です。

3月に卒業を控えている生徒のためにお祈りください。高橋陸君、伊東実結さん